ローリー・ローゼンウォルド　Tシャツプリント

電通クリエイティブ総務
クリエイティブ・
ディレクター
長谷川正宏氏

―今回の展覧会は、ニューヨークのイラストレーターを集めたということですが。

長谷川　ええ。現在、ニューヨークで活躍中のイラストレーター20人を集めまして、それぞれの作品をパネルでご紹介します。

―主要作家というと、どういう方たちが挙げられるでしょう?

長谷川　それぞれに特徴がありまして、一概に誰が代表とはいえないのですが、バニー・フュークスやアーニー・チャック、ローリー・ローゼンウォルドなどがおもしろいのではないでしょうか。毛色が変わったところでは、マーク・コスタビなども出品します。

―バーニー・フュークスといえば、かなり他のアーティストに影響を与えているといわれていますね。

長谷川　そうですね。オーソドックスではありますが、アメリカン・イラストレーションの第1人者として、必ず名前の挙げられる人です。

―ローゼンウォルドはどうですか?

長谷川　とてもポピュラーなアーティストの1人です。今回の作品展に出品しているものをご覧いただければ判ると思うのですが、雑誌『ニューヨーク』の挿し絵や、Tシャツのプリントなども手懸けています。ユーモアもありますし、色彩が大胆で、ポップ・アーティストらしいイラストレーションが楽しめるのではないでしょうか。

バニー・フュークス作品

―そうですか。ところで、電通アド・ギャラリーでこのようなイラストレーション展を開催される意図は、どういう点にあるのですか。

長谷川　そうですね、私どもの画廊は、画廊といっても広告・マスメディアに関連したものを扱っているギャラリーですから、あくまでも広告表現体として、クリエイターの方たちに価値があると思われる展示活動をしているわけです。その意味で、今回の『ニューヨーク・イラストレーター20人展』は、雑誌に限らず、マスメディアの表現手段のひとつとして既にジャンルを確立しているイラストレーションを、その最先端にスポットを当てることでもう1度再認識することができるのではないでしょうか。

―これだけマス媒体でも活躍中のアーティストを並列すると、単なるイラストレーション展とは大分インパクトも違いますものね。

長谷川　ええ。日本のクリエイターたちにとっても、かなり影響を与えているアーティストたちばかりですから、ハイ・レベルな内容になるでしょうね。

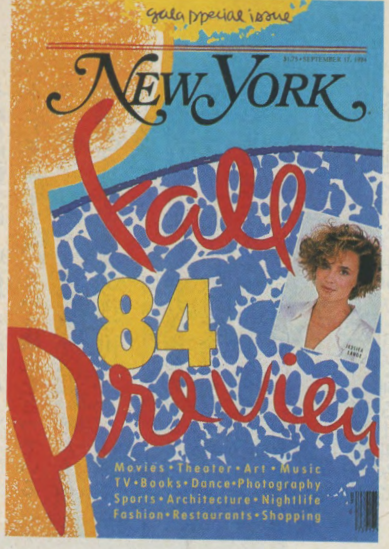
―やはりクリエイターの方たちが多く観に来られますか?

長谷川　そうですね、多いようです。あと若手のアーティストの方たち。

―ニューヨークの〝現在〟が熱い鼓動となって伝わってくるのが楽しみです。

長谷川　どうぞご期待ください。

会期　8月11日(日)―8月29日(金)
会場　電通アド・ギャラリー



ローリー・ローゼンウォルド　雑誌の表紙絵より

〝東京〟の熱い鼓動が聞えるか!

〝JACA〟とは〝Japan・Art&Culture・Association〟の略。毎年、社団法人国際芸術文化振興会が主催するイラストレーション展を指すのだが、今回は同展にとって4回目。ようやく日本独自のポップ感覚が生まれつつある昨今、その真価が大いに問われる展覧会として注目を集める。また、第1回は西ドイツ・ケルン、第2回は、イタリア・ローマ、第3回はアメリカ・ロサンゼルスと、世界へ巡回するイラストレーション展であるだけに、今回、既に公開が決定しているオーストラリアでどう評価されるのか、アート関係者ならずとも、かなり気にかかるのではないだろうか。

まず、同展の構成を説明すると、第1部がイラストレーション公募部門。これは、一般から広くイラストレーションの作品を公募し、アート性が高く、しかも、これからの文化に対して有意義であると認められる作品にそれぞれ大賞を始めとする各賞を贈ろうというもので、本年度は総数2715点の作品が寄せられたと聞く。ちなみに第1回からの大賞受賞者を挙げてみると、第1回=日比野克彦、第2回=根之木正明、第3回=田中紀之、の各氏。いずれも現在のアート界に於いて、その最先端に位置する活動を展開している各氏だけに、同展の質の高さが判ろうというものだ。

また、もうひとつの目玉は、なんといっても招待作家部門。毎回、ユニークな企画で一線級のアーティストに作品を提出してもらい、

柴田仁志「ゴルフをするインド人」